2月 園だより ～きづき～

キ３園　　第９８号
２０２６年２月号
キッドワールドサード保育園
園長　　是永　妃富

寒さが一段と増す季節になりました。室内で過ごす時間が増え、ちょっと遊び足りない様子の子どもたちです。室内だからこそ、冬のこの季節だからこそ楽しめることを見つけながら、２月も楽しく過ごしていきたいと思います。

さて、2月3日は節分です。邪気を払い、子ども達が健やかに成長できるように豆まきを行います。「鬼は外、福は内」の掛け声で子ども達と職員で楽しみます

２月行事予定

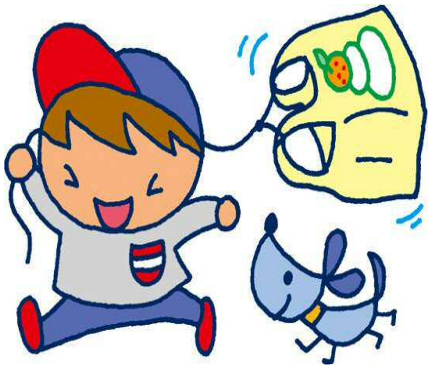
3日（ 火)豆まき
10日　(火)身体計測
19日　(木)健康診断
25日　(水)避難訓練

お弁当日は２月７日(土)です
お弁当と食具を持たせてください。

お知らせ・お願い

・前日や、休日に体調が悪かった場合い知らせてください。
また、連絡先が変更になった場合も教えて頂けると助かります。
・インフルエンザ B が流行しています。手洗いをしましょう。十分な睡眠、栄養のあるものを取りましょう。
・持ち物には名前の記入をお願いします。
・3月14日(土)は、発表会ごっこ、修了式を行います。よろしくお願い致します

１月の子どもの姿



・正月明けは、クラスごとで作った凧揚げをしたり、福笑いををして遊びました。避難訓練では片島児童公園まで避難しました。寒い中必死に歩く姿は{大きくなったね}の思いを感じました。寒さの折、室内活動の日々もありますが、担任がそれぞれの活動を考えていて、笑顔の表情がたくさん見れます
2歳児さんは「貸して」「いいよ」等、言葉の掛け合いも増え頼もしく思える日々です。進級まであと少しです。

キ　ドエッセイ 76

子どもが望む大人の世界④　～１７の子どもの願い～

牧野　桂一

子育てについて書いてくれています。お読みください

⑩　子どもを褒めて励ます

前回までに都合で紹介しきれなかった「⑩子どもを褒めて励ます」の項目以下の内容について、今回も順次紹介していきたいと思います。

最初は、⑩番目になる「子どもを褒めて励ます」からはじめて行きたいと思います。

子どもを褒めて励ますことは、子どもを勇気づけ元気いっぱいにさせるとともに子どもの自己肯定感を育み、チャレンジ精神を養い子どもの成長に多くの良い影響をもたらします。ある研究によると、褒められた子どもは前向きな気持ちになり、様々な能力が向上すると報告されています。

具体的な褒め方や励まし方については、くつかのポイントがありますのでそれを紹介していきたいと思います。

最初は子どもを褒めるときは、結果だけではなく、プロセスを褒めることが大切です

子どもを褒めるときに大切なことは、能力や性格を讃えるだけではなく、取り組んでいる過程での努力や挑戦した姿勢、やり方を工夫した点などに言及し、励ましてあげることです　一般的には子どものすることに対しては、目の前の結果だけに目が向いてしまうことが多いのですが、子どもにとっては、結果だけではなく努力したいろいろなことや辛くても負けずに頑張った姿勢を褒めることが重要です。例えば、「縄跳びか跳べてすごいね！」というよりはよりも、「縄跳びが跳べるようになるまでよく頑張ったね。一生懸命だね」というように、頑張って努力してきたことに焦点を当てて褒めると子どもには、とても大きな励みになります。

次に大切なことは、子どもを褒める時には具体的に褒めるということです。

「すごいね」「やったね」「上手だね」といった漠然とした抽象的な褒め言葉だけでなく、何がどうすごかったのか、具体的に言葉にして伝えるのです。例えば、積み上げたブロックについて「この赤い三角を一番上に置いたのがいいね」など、目に映ったことを具体的に子ども分かるように伝えることで、子どもは自分の行動が認められたと感じることができるようになります。これは、子どもの意欲の維持継続にもつながります。同じような例には、「お片付けできてえらいね」「丁寧だね」などがあります。

また、次に大切なことは「すぐに褒める」ということです。心理学ではそれを「即時評価」ということで子どもの行動を形成するのにとても大切にしています。良い行動を見つけたら、時間を置かずにその場ですぐに褒めることが大切というのです。タイミングを逃さず褒めることで、子どもは何が良かったのかをその場ですぐに理解することができるからです。

また、次に大切なことは、子どもがしてくれたことに感謝を伝えることです。

「お手伝いしてくれてありがとう」「お母さん、とっても助かったよ」というようにその場で感じた感謝の気持ちを伝えることも子どもを励ますことにとても効果的です。子どもは自分の行いがお母さんの役に立ったと感じることで、誇らしい気持ちになるのです。子の感謝の気持ちはありがとうという言葉で表現されることが多いので、心を込めて子どもをしっかり見つめながら「ありがとう」というのです。外国の親子を見ていると「サンキュウ」という言葉がとても多いことに気づきますが、親子の信頼関係がよく伝わってきます。

つぎに大切なことは、子どもの存在そのものを褒めるということです。

「〇〇ちゃん大好きだよ」「生まれてきてくれてありがとう」など、子どもの存在そのものを無条件に肯定的に受け止めて褒めることも、子どもが自己有用性を感じ自己肯定感を高める上で非常に重要になります。

さらに大切なこととして、子どもが失敗した時も励ますことが必要になります。

子どもが失敗して落ち込んでいる時には、「誰にでも失敗はあるよ」「よく頑張ったね」といった励ましの言葉を育むことができるのです。英語では、失敗したときに「グッズ　ジョブ」つまり「いい仕事をしたね」といって励ましています。失敗は人間にとってはいい仕事なのです。

この「褒めて励ます上手な声かけ」とかかわって、上手な叱り方についても紹介しておきたいと思います。子どもを叱るということは、社会に適応していくために必要な知識や技術を教えるために必要なことであり、罰を与えて子どもの行動をコントロールするために行うものではありません。

子育てにおいて、上手に叱るというのは、上手に褒めて励ますことよりも難しい面も多いといいます。特に子どもが言うことを聞かないときや癇癪を起こしている時は、親もイライラしてしまって、つい感情的な対応をしてしまうこともあります。そのようなことを考えて、褒めて励ますのとおなじように子どもの成長につながるように叱るためには、どのような叱り方をすればよいかということには次のような 4 つのポイントがあるといわれています。

①「ダメ」「違う」ということをできるだけ使わないようにする。
②結果ではなく努力やプロセスに目を向けるようにする。
③好ましくない行動に対してはその理由をきちんと説明するようにする。
④叱っている親の気もちを正直に子ども伝えるようにする。

というようなことです。叱る時も褒めて励ます時と本質的に共通する部分が多く感じられると思います。

今回もまた、紙面の都合で紹介しようと思っていた項目を全て紹介することはできませんでしたので、次回に、⑪一人一人の違いに応じた対応をする　⑫子どものしていることに驚きを持つ　⑬あるがままを受け入れる　⑭明るくてほほ笑みの多い保育者　⑮ユーモアに富んだ保育者　⑯子どもの名前を呼んであげる　⑰人として美しくなどについて紹介していきたいと思います。

子どもは褒めて励ます。
本当にその通りですね。私も
このエッセイを読みながら頷
いています。どうぞ参考に
されてください。